

平成 2 7 年 6 月 1 日現在

機関番号：14101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2014

課題番号：25870330

研究課題名（和文）アメリカン・コミックスにおけるビート・ジェネレーション表象：変容する反順応主義

研究課題名（英文）Representation of the Beat Generation in American Comics

研究代表者

社河内 友里（SHAKOUCHI, Yuri）

三重大学・工学（系）研究科（研究院）・特任助教（教育担当）

研究者番号：30616347

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000 円

研究成果の概要（和文）：1950年代から2000年代までのアメリカン・コミックスにおけるビート・ジェネレーション文化表象の変容から、ビートニクのステレオタイプが主流消費文化とカウンター・カルチャーの間で多様な立場を横断して描かれてきたことを明らかにした。また、ビートニクのステレオタイプは、主流文化とカウンター・カルチャーの因習的な二項対立に対して閾值的に機能してきたことも論じた。

研究成果の概要（英文）：The transformation of the representations of the Beat Generation in American comics from the 1950s to the 2000s shows that Beatnik stereotypes have been generated from various perspectives across and between the mainstream consumer culture and the counterculture. Beatnik stereotypes have functioned in liminal positions to challenge the conventional binary opposition between mainstream culture and counterculture.

研究分野：アメリカ文学・文化

キーワード：ビート・ジェネレーション アメリカン・コミックス 反順応主義 消費主義 表象文化論

1. 研究開始当初の背景

1950～1960年代のアメリカにおいて、ビート・ジェネレーションの作家達は、その反順応主義的な文学作品によって若者たちの支持を集めた。ビート作家の登場直後、そのステレオタイプが生まれた。このステレオタイプに追従した若者たちはビートニクと呼ばれ、広く知られることとなった。これまで、ビート・ジェネレーションの文化(ビート文化)の変遷についての研究は、1950年代にビート作家の示した反順応主義的な文化が、1950年代末にステレオタイプ化されたビートニクの流行へと移行し、1960年代後半のヒッピー・ムーブメントの興隆と共に衰退したことを指摘するものに留まってきた。

しかしながら、注目すべき点は、ビート文化が、1990年代以降、大きく再評価されてきていることである。近年、ビート文化はアメリカの漫画、映画、文学作品等のポピュラー・カルチャーにおいて大きく再評価されているにもかかわらず、再評価に至るまでの変遷や要因は、未だあまり議論されていない。そこで、本研究では、特に1990年代に見られるリバイバルの形態と起因に注目しながら、1950～2000年代のビート文化表象形態の変遷を、特にアメリカン・コミックスにおける表象から明らかにした。

2. 研究の目的

本研究期間には、主に、以下の二点について研究を行うことを目的とした。

(1)1970～1980年代のアメリカン・コミックスにおけるビート文化受容形態の分析

研究代表者は、これまでに、1950～1960年代及び1990年代以降のアメリカン・コミックスにおけるビート文化受容形態については、すでに調査済みであった。そこで、未調査であった1970～1980年代のアメリカン・コミックスにおけるビート文化受容形態を明らかにすることを目的とした。

(2)1950～2000年代のアメリカン・コミックスにおける一連のビート文化受容形態についての相互的な分析

これまでに調査済みであった年代のアメリカン・コミックスにおけるビート文化受容形態及び(1)の結果を踏まえて、1950～2000年代のそれぞれの時代のアメリカン・コミックスにおいて、ビート文化の特徴である反順応主義がそれぞれの時代の資本主義社会とどのような関係性を持っているのか、また、それぞれの時代におけるビート文化受容形態がどのように相互作用しあっているのかという点を考察し、本研究を完成させることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は以下の手順で進めた。

(1)1970～1980年代のアメリカン・コミックスにおけるビート文化受容形態の分析

これまでに収集した1970～1980年代のアメリカン・コミックスにおいて、当時の資本主義社会との関係性の中で、ビート文化の反順応主義的要素がどのように修正されて描かれているかを、メインストリーム・コミックス、アンダーグラウンド・コミックスのそれぞれについて分析した。また、この過程でさらに収集可能であることが判明した資料についてはインターネット等を用いて可能な限り収集し、随時分析に加えた。

(2)1950～2000年代のアメリカン・コミックスにおける一連のビート文化受容形態についての相互的な分析

(1)の結果と、これまでに明らかにした1950～60年代と1990～2000年代のコミックスにおけるビート文化表象形態を繋ぎ合わせ、1950～2000年代の一連のビート文化受容形態の変遷を明らかにし、その要因を考察した。

4. 研究成果

研究の結果、ビート文化は、資本主義社会における主流文化とカウンター・カルチャーの境界的な文化として位置しながら変遷していることが明らかとなった。1950～2000年代のアメリカン・コミックスにおいて、以下のような結果を得た。

(1)1950年代のアメリカン・コミックスにおけるビート文化受容形態

アメリカン・コミックスにおけるビートニク表象の元となったのは、ヒップスター文化である。1950年代半ばのいくつかのコミックには、ヒップスターの描写を通して、社会に対する反順応主義的立場が示された。コミックス倫理規定の制定は、当時のアメリカ社会の保守的な側面を反映する出来事であったと考えられるが、コミックには、ヒップスターのイメージを用いて規定への反抗を示す姿勢が見られる。次第にビートニクがアメリカで広く知られるところとなると、ビートニクの反順応主義の矛盾や限界を批判する立場からビートニクを描くコミックが登場した。1950年代のアメリカン・コミックスにおけるビートニク表象に見られる、ビートニクの矛盾への風刺には、当時の主流文化とボヘミアン文化との間にあった絶対的な二項対立が反映されていると考えられる。このことについては、その一部を、雑誌論文において発表した。

(2)1960年代のアメリカン・コミックスにおけるビート文化受容形態

1960年代のビートニク表象からは、当時のアメリカ社会における中流階級、ボヘミアン、中立主義者という三つの立場を読み取ることができる。1960年代のコミックスからは、

ポヘミアンの文化が、中流階級の文化の中でも重要視されたことが読み取れる。メインストリーム・コミックスにおけるコミカルで無害なビートニクの登場人物は、反順応主義的な要素を含意してはいるが、主流文化にとっての脅威とはならない形で描かれている。一方、アンダーグラウンド・コミックスの中には、ビートニクの表象を通して、急進的なポヘミアンの立場を示すものもあった。しかし、1960年代後半になると、中立主義的立場が新しく現れ、描かれることとなる。このことについては、その一部を、雑誌論文 および学会発表 において発表した。

(3)1970年代のアメリカン・コミックスにおけるビート文化受容形態

1970年代のアメリカン・コミックスにおけるビートニクの表象からは、当時のアメリカ社会では、中流階級もポヘミアンも急進的な姿勢を弱めたこと、また、オルタナティブな立場が新しく現れたことが読み取れる。オルタナティブ・コミックスの作品には、ビートニクを因習的で順応主義的なポヘミアンとして描くものもあった。さらに、いくつかのオルタナティブ・コミックスにおいては、因習的なポヘミアンとも、主流文化の中産階級とも、また、1960年代に見られた中立主義とも違う、新しい中間的な立場が提示された。このことについては、その一部を、学会発表 及び において発表した。

(4)1980年代のアメリカン・コミックスにおけるビート文化受容形態

1980年代のアメリカン・コミックスにおけるビートニク表象には、政治的には保守的で経済的には自由主義的な、新自由主義の価値観が色濃く反映されている。1980年代のアメリカン・コミックスからは、ビートニクの登場回数が減少しているが、このことは、ビートニクのステレオタイプの持つポヘミアン的なイメージが、当時の新自由主義の価値観と合致しないものであったためと考えることができる。1980年代末になると、ビートニクのイメージが、男性的な身体を持ったスーパーヒーローに修正され、描かれるようになる。この表象形態には、保守的且つ家庭的な、当時の理想のアメリカ人男性像が反映されていると解釈することができる。このことについては、その一部を、学会発表 及び において発表した。

(5)1990年代以降のアメリカン・コミックスにおけるビート文化受容形態

1990年代、アメリカのポピュラー・カルチャーにおいて、ビートニクのステレオタイプの再評価が起こった。メインストリーム・コミックスのスーパーヒーローの文脈における再評価では、ビートニクの歴史的背景やステレオタイプは修正され、ビート作家らの文化が反復された。さらに、スーパーヒーロー・

コミックス以外のいくつかのコミックスにおいては、ビートニクの歴史的背景やステレオタイプ、ビート作家らの文化が、より強引に修正された。これらの修正には、修正主義的で知性主義的な当時のアメリカ社会の傾向が反映していると考えられる。ビート作家らの文化への言及は、1950年代のビート作家らの「反知性主義的知性主義」と関連付けて理解することができる。このことについては、その一部を、学会発表 、 及び において発表した。

(6)1950～2000年代のアメリカン・コミックスにおけるビート文化受容形態の変遷とその要因

1950年代から2000年代までのアメリカン・コミックスにおけるビート文化表象の変容から明らかになるのは、ビートニクのステレオタイプが、主流消費文化とカウンター・カルチャーをまたいで、またはその間で、多様な立場を横断して機能しているということである。ビートニクのステレオタイプは、主流文化とカウンター・カルチャーの二項対立に対して閾值的に機能してきたと考えられる。このことについては、その一部を、雑誌論文 、 及び学会発表 ~ にて発表した。今後さらに論を深め、論文にまとめて発表する予定である。

(7)研究成果の国内外における位置づけとインパクト

ビート文化は、近年、アメリカのポピュラー・カルチャーにおいて大きく再評価され、注目を集めてきている。この再評価はアメリカ国内にとどまらず、日本国内のポピュラー・カルチャーにも広く見ることでできるものである。しかし、再評価に至るまでの変遷や要因は、これまであまり議論されてこなかった。

本研究の成果は、アメリカをはじめ日本やその他の国々で現在再評価されているビート文化について、これまで明らかにされてこなかったその受容形態の変遷とその要因を、時代ごとに明らかにしたという点で重要であるといえる。また、1950年代以降のカウンター・カルチャーの反順応主義的精神が資本主義社会において果たしてきた役割と位置づけの一部を、ビート文化という視点から明らかにした点においても、重要であると考えられる。

(8)今後の展望

本研究を進める過程で、ビート文化に言及のある作品にはビート文化以外のカウンター・カルチャーについての言及も散見されることに、新たに気が付いた。1990年代以降には、様々なアメリカのカウンター・カルチャーが、ビート文化と同様にリバイバルしているのではないかと推察できる。ビート文化のみならず、アメリカの様々なカウンター・カ

ルチャーのリバイバルという、より大きな視点からアメリカのポピュラー・カルチャーを検証することで、アメリカのカウンター・カルチャー全体の変遷やその要因を理解することができると考えられる。本研究の成果を踏まえ、今後は、アメリカのカウンター・カルチャー全体という大きな視点を持ちながら、アメリカの文化の変遷やその要因を明らかにしていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

Yuri Shakouchi、 “The Stereotypes of the Beatniks and Hip Consumerism: A Study of Mad Magazine in the Late 1950s”、The Journal of Popular Culture、査読有、掲載決定

社河内 友里、「Ernie Bushmiller の Nancy におけるボヘミアニズムと子供の記号と逸脱」、名古屋アメリカ文学・文化、査読無、第 3 号、2014、pp.39 - 52

<<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/jspui/handle/2237/19838>>

[学会発表](計 4 件)

社河内 友里、「アメリカン・コミックスにおけるビートニク表象と反順応主義:1990 年代以降のリバイバルにおけるスーパーヒーロー像を中心に」、アメリカ学会第 48 回年次大会、沖縄コンベンションセンター(沖縄県、宜野湾市)、2014 年 6 月 8 日

Yuri Shakouchi、 “The Beatnik Stereotypes in Bill Griffith’s Zippy the Pinhead and Anti-Consumerism”、Popular Culture Association / American Culture Association National Conference 2014、シカゴ(アメリカ)、2014 年 4 月 16 日

Yuri Shakouchi、 “Beatniks and the Global Consumer Culture in Mike Allred’s madman”、 “American Literature / Culture in a Global Context” A Symposium Organized by the Nagoya University American Literature / Culture Society、名古屋大学(愛知県、名古屋市)、2014 年 3 月 6 日

社河内 友里、「Ernie Bushmiller の Nancy における子供とボヘミアニズム」、日本アメリカ文学会中部支部 6 月例会、中京大学(愛知県、名古屋市)、2013 年 6 月 15

日

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

社河内 友里 (SHAKOUCHI, Yuri)

三重大学工学研究科・特任助教(教育担当)

研究者番号: 30616347

(2)研究分担者

なし。

(3)連携研究者

なし。